

# SDGs への取組み

株式会社榮太樓總本舗は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

「SDGs」とは、Sustainable Development Goals の頭文字をとったもので、すべての国連加盟国が 2030 年までに達成することを目指す 17 分野に亘る目標のことです。17 分野は、さらに細分化された 169 のターゲットから成り立っており、達成には、国だけではなくて企業や個人の積極的な取り組みも求められています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 目次

- ・ 「おかげさま農場」のマンゲツモチ
- ・ 栃木県の「ハート&ベリー」
- ・ 山梨県の「ツルタブドウパーク」
- ・ 「愛媛県とつくった 温州みかん飴」に果皮を使用
- ・ 「ひとくち羊羹」パッケージの紙化
- ・ 「一粒万倍もち」にコットンペーパーを採用
- ・ 残渣（食用に使われない部分）を材料にしたグッズ
- ・ 廃蜜の有効利用
- ・ ロス裸飴、小豆煮汁の有効利用
- ・ 工場の照明をLED化
- ・ キープ・ママ・スマイリングに協賛
- ・ 児童養護施設への商品寄付／季節イベントに菓子を協賛
- ・ 医療従事者の方々をお菓子で応援
- ・ 工場売店
- ・ 「オンラインストア 食品ロス対策」
- ・ 店舗での食品ロス対策アプリの導入
- ・ 日本橋の町と当社本店
- ・ 工場近隣中学校の職場体験学習への協力
- ・ 和菓子教室や工場見学
- ・ 福祉施設との取組み
- ・ 活躍する女性社員
- ・ 健康的、かつ時代に合わせた働き方

原材料／地産地消を目指し国内の農家と連携する

■ 「おかげさま農場」のマンゲツモチ

2015年～



「おかげさま農場」は千葉県成田市にある減農薬に取り組む農業団体。当社で使用されるもち米（マンゲツモチ）の多くはこちらで収穫されています。農薬の使用を抑えているためそれを育てる土壌、集まる生き物、水といった自然環境を壊すことなく、また人の体にも害のないもち米を作ることができます。さらに、田んぼの一部をお借りして農家の指導のもと当社社員が毎年手作業で田植えから収穫までを体験学習。農家の方たちとの交流を通し社員の学びにもなり、同時に農家の方たちの生産意欲の向上にもつながる毎年恒例の取組みとなっています。



八王子工場内でもプランターを使って数株のマンゲツモチを栽培

■ 栃木県の「ハート&ベリー」

2019年～



before

after



栃木県にある野口圭吾さんが育てる苺を当社「いちご大福」に使用しています。安心、安全でおいしい高品質の苺を生育。土壌消毒には太陽の熱を利用して殺菌する「太陽熱消毒」で化学農薬は一切使用していません。殺菌力を持つ電解水や「天敵農薬」を導入して減農薬に努めています。電解水、酵素、アミノ酸、微量元素などを使用した独自の栽培方法により、完熟でも日持ちがし、豊潤な香りと濃厚な味を生み出すとともに、苺らしい味や酸味をバランスよくしてくれます。化学農薬を使用せず環境に配慮した取組みをしている農家さんとの繋がりを持つことで生産意欲の向上にも寄与しています。以前は業者さんを通して苺を仕入れていたため、いちご大福に不向きなもの、口スになってしまうものも多くありました（写真、一番左）。ハート&ベリーと直取をすることで完熟した苺（写真、左から二番目）を仕入れることができ、味、見た目も良く、苺自体に硬さもあるため、配送時の破損や口スがほぼゼロになりました。食品ロスという観点で取組みをしつつも、味や品質の改善も同時に行なえました。

## ■ 山梨県の「ツルタブドウパーク」

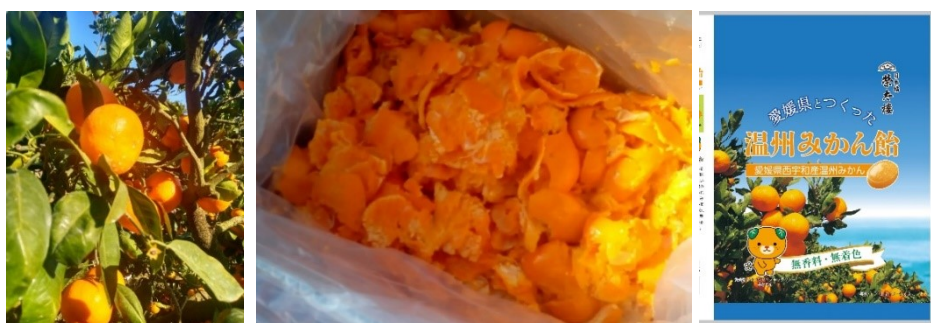
2021年～



生産者限定ぶどう。山梨県の鶴田さんが経営するブドウ園ではぶどうの木一本一本を丁寧に愛情持って育て、色・形・甘さにこだわりあるぶどうを作っています。持続性の高い農業生産方式の認定を受けています。当社は「シャインマスカット」、「ゴルビー」の2品種を使用した大福を発売しました。実際に現地へ赴き、生産者である鶴田さんと直接交流を図ることで、大福に合う最も良い状態のぶどうを生産。国内産の素材を使うことで地産地消の意識も高まり、同時に生産者の生産意欲の向上にも繋げています。

## ■ 愛媛県協力「愛媛県とつくった 温州みかん飴」に果皮を使用

2022年～



三菱食品様との共同開発商品。地方との結びつきとロスのないモノづくりに視点を置いた商品。愛媛県の協力を受け愛媛県西宇和地方の特産である温州みかんの果皮を使用。愛媛県は2008年より果皮採取事業を開始し、産業廃棄物の扱いであった（みかんの果汁搾汁後の）果皮を食品素材として活用する取り組みを始めました。その取り組みに共感し、本来であれば廃棄してしまうみかんの果皮をロス削減の観点から原料として使用しおいしいみかん飴

に。地方の農産物を使用することで地域活性にも貢献でき、農家の方の生産意欲の向上にも繋がる地産地消もテーマとなっている商品。

## 資材や包材／環境に配慮した材料を使い自然にやさしい製品を作る

### ■ 「ひとくち羊羹」パッケージの紙化

2020年～



食品卸である三菱食品様との共同開発商品。プラスチックゴミの削減を三菱食品として掲げている中で当社共同開発商品も検討を進めていた最初の取組み商品です。紙を使用することで、通常のプラスチックの使用量を50%程度削減し環境に配慮した商品となっています。年間定番の小豆・小倉の他、季節品の塩・抹茶、はちみつ・ほうじ茶のラインナップを揃えています。（2020年夏から企画着手、発売は2021年9月）

### ■ 「一粒万倍もち」にコットンペーパーを採用

2022年～



何かを始めるのに最適な日、願いが実る日と言われている一粒万倍日。その一粒万倍日にあわせ「一粒万倍もち」を2017年から販売しました。コロナにより不安やストレスが高まる昨今、縁起のよい和菓子を食べ、めでたい社名で知られる福德神社へお参りいただくことにより、皆様の願いが万倍にも実りますようにという思いを込めた商品です。商品についている絵馬は衣類の製造で使うことがなく廃棄されるコットンペーパーを50%使うことで食品だけではなく他の素材のロスの削減につながる取り組みとなっています。

## ■ 残渣（食用に使われない部分）を材料にしたグッズ

2018 年



記念用グッズ（非売品）としてハンドタオルを制作した際に、その染料として化学薬品を使わずに自然由来のものを使用しました。定番商品の黒飴を始めとして当社には黒糖を使った菓子がたくさんありますが、その黒糖の原料であるサトウキビ。その食用にならない部分（搾りかすなど）を使い、色を取り出して染色の材料としました。製造については植物から色を作り出す特殊な技術をもつ会社とタオル製造会社の2社との連携。

## 製造／工場での製造工程の中でロスや無駄を減らす

### ■ 廃蜜の有効利用

2018 年～



八王子工場での取組みとして、2018 年 10 月から製造工程で発生する「廃蜜」をバイオマス原料として売却しています。量は一年間でおよそ 55 トン。売却先は関東にある専門の企業にお願いしています。

### ■ ロス裸飴、小豆煮汁の有効利用

2021 年～







製造工程で発生する裸飴のロスや製造トラブルで使用できなくなってしまった裸飴を、豚の液状飼料の原料として回収してもらっています。量は月平均で1トンほど。また、2022年4月からは小豆の煮汁（砂糖を加える前のゆで汁）も回収してもらうようになりました。煮汁の量は月間6～11トンになります。処理先の会社では飼料製造から養豚まで一貫で行なっています。

## ■工場の照明をLED化

2022年～



八王子工場で使用しているすべての照明をLEDに切替えました。これによって、消費電力が年間8.3%減少しました。また、CO2排出削減は年間29,386kg-CO2。換算係数は、削減電力(kwh)×0.555キログラム-CO2として算出)

社会

商品協賛 / “心の栄養素” お菓子をすべての人へ

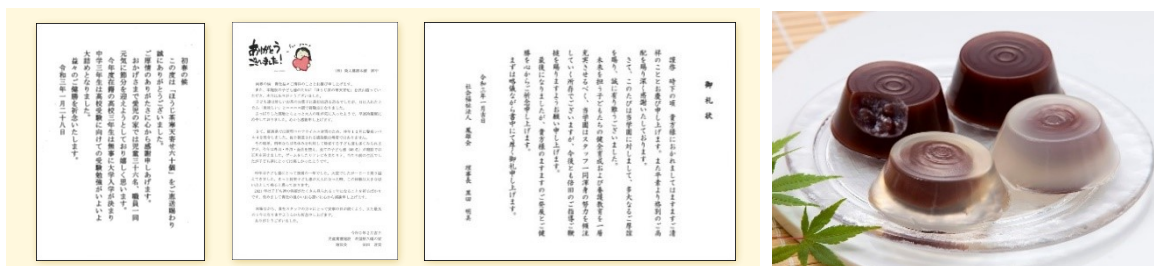
## ■ NPO 法人 キープ・ママ・スマイリングに協賛

2021 年



当社では、食品ロス対策を兼ねた社会貢献の一環として、NPO 法人キープ・ママ・スマイリング（中央区銀座 4 丁目・光原ゆき理事長）様に滞留製品を物品協賛しました。この NPO 団体様では、2014 年の設立以来、入院中の子どもに付き添っているお母さんやご家族を支援されています。コロナ禍以降は、感染防止対策として医療機関への出入りが厳しく制限されるようになったため、2 週間以上小児病棟に泊まり込んで看病しているご家族に食料品や生活用品をお届けする「付き添い生活応援パック無償配布事業」に精力的に取り組まれています。当社では、この事業に賛同し、応援パックの協賛商品として当社製品をご活用いただいております。

## ■ 児童養護施設への商品寄付



毎年 11 月頃、(公社)日本缶詰びん詰レトルト食品協会からの依頼に対して協賛対応をしております。在庫がある場合には「缶入り水羊羹」を提供しています。商品の行き先は児童養護施設になります。各施設の皆様からは「届きましたよ」の嬉しいお便りもいただいたりします。

## ■ 季節イベントに菓子を協賛

2018 年



八王子工場近隣地域自治会のハロウィンイベントにお菓子を提供。その御礼に嬉しい寄せ書きをいただきました。以下、工場の担当者のレポートより抜粋。「親御さんと一緒に工場売店へ買い物にきてくださるお子さんも多く、



地域の子供たちにとって榮太樓のお菓子が身近なものになってきているのがとても嬉しく思います。『いつもおいしいあめをありがとう』という言葉に恥じないよう、榮太樓のお菓子の思い出が、子供たちの良い思い出として心にずっと残るよう、良いものを作り続ける努力を皆で出来たらいいなと思います」。

## ■ 医療従事者の方々をお菓子で応援

2020年



新型コロナウイルス感染拡大時に医療従事者へ支援品としてお菓子をお届けしました。2020年4月29日以降に実施。主な支援品は次のもの。

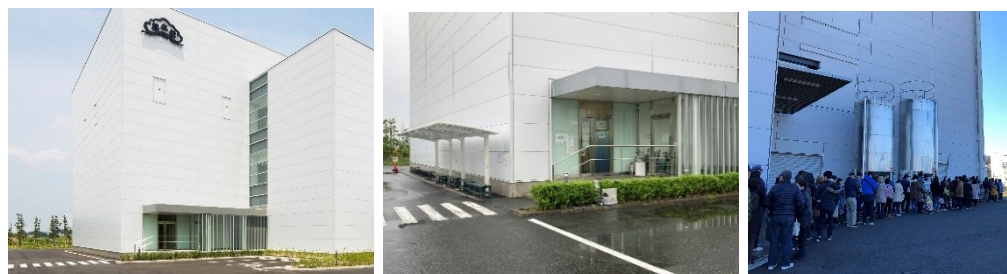
- からだにえいたろう 「糖質をおさえたようかん」（こし餡・はちみつ・黒糖）
- 榮太樓飴 「東京名所缶」（梅ぼ志飴・黒飴・紅茶飴）
- 東京ピーセン 「はちみつバター味」

寄付先：東京都内の病院各所

## 食品ロス／食べ物を無駄にしない、新たな廃棄コストを発生させない

### ■ 工場売店

1995年～



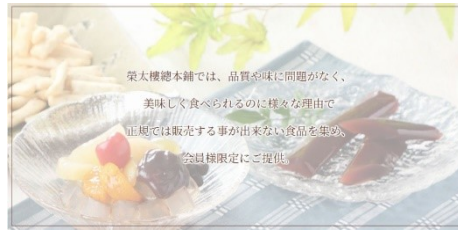
販売期間が少なくなり店頭に出せないタイミングになった商品などを特価で販売しています。現在の八王子工場（東京都八王子市七国 1-29-3）にもあり、以前の工場（調布市仙川）にもありました。近隣にお住まいの方にはご好評いただいております。販売員は工場の事務職員が対応。右端の写真は年一度の決算処分市のときの様子。

## ■「オンラインストア 食品ロス対策」

12 つくる責任  
つかり責任



2020年～



コロナ禍に際して、販売サイト内に「食品ロス」対策の専用ページを設けた。以下、サイト紹介文より抜粋。「政府の緊急事態宣言を受け、従業員の安全を考え現在すべての百貨店店舗をクローズしております。その影響で一部の商品に賞味期限切れが発生する恐れが出てまいりました。弊社は食品ロスをなるべく抑えたいという思いから、“No！食品ロス”と題した企画を緊急に開始致しました。ECショップ会員様限定で、普段お買い上げいただいている価格から大幅にお値引きして販売致しますので、是非ご利用くださいませ。～」

## ■店舗での食品ロス対策アプリの導入

12 つくる責任  
つかり責任



2023年～



まだおいしく安全に食べられるのに廃棄されてしまい、それが食品ロスも増やしてしまう。これをなんとかしたいというのは誰しもが思うこと。「飲食店舗とユーザーをマッチングさせるフードシェアリング」を実現するアプリ「TABETE」のサービスを知り、栄太樓總本舗もこちらを採用しております。お店は廃棄を増やさずユーザーもおいしく食べながら社会貢献ができることを目指すものです。

### ■TABETE 導入 3 テナント

- ・ 栄太樓總本舗日本橋本店
- ・ 玉川高島屋 SC店
- ・ アトレ恵比寿店(あめやえいたろう)

## 町と人／近隣地域とのふれあい

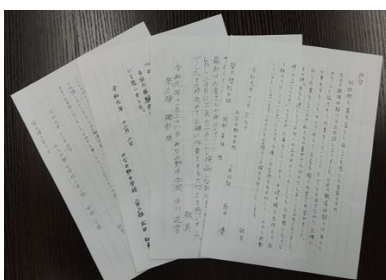
## ■ 日本橋の町と当社本店



本店がある日本橋は江戸時代「日に三千両」と形容されるほどの江戸随一のにぎわいを見せる町でした。近年は新しい施設も増え、さらに大規模な再開発の時期も近づいております。が、一方でアットホームな気分にさせてくれるような親しみやすい一面があるのも魅力です。行政、住民、企業が一緒になり様々な活動をしております。写真は左から、名橋日本橋保存会の「橋洗い」。「はな街道」。「メトロリンクバス」。

※写真 左：日本橋「橋洗い」、中：NPO 法人 はな街道パンフレット、右：日の丸自動車興行資料

## ■ 工場近隣中学校の職場体験学習への協力



八王子工場近隣の中学校からくる職場体験学習依頼に協力をしています。コロナが始まる前までは、工場に掛紙作業や箱詰め作業を取り寄せて製造棟 1 階のスペースで体験作業をしてもらっていましたが。本年（2022）はコロナの影響を考慮されて「職場訪問」という形での依頼がきています。

## ■ 和菓子教室や工場見学



以前の工場（調布市仙川）時代から生菓子作りを体験できる和菓子教室を開催しておりました。今は一時中断していますが、本店（中央区日本橋 1-2-5）でも不定期で和菓子作り体験教室を実施。ベテランの和菓子職人の手業を間近で見ることができるので人気の企画です。（現在は、コロナ禍のため実施しておりません）。

## ■ 福祉施設との取組み

2008 年～



2015 年 12 月、かながわ県民センターにて。神奈川県保健福祉局福祉部障害福祉課から感謝状を頂きました。県内の福祉施設との協働作業への取組みが評価されてのことです。繋がりとしては 2008 年 11 月から取引開始。工場に製造された製品の商品化工程の一部（箱折り、箱詰め、袋詰めなど）を受け持っています。働く喜びを皆で感じられる取組みとして大切に考えておりますが、こういう福祉作業所への作業依頼はかなりの数に上り都内の施設多数と取り組んでいます。（2022 年 7 月時点 18 ヶ所）

自社

## 職場環境／ 平等で公平な職場作り

### ■ 活躍する女性社員

2022 年







社員全体に占める女性管理職の割合は 17.9%（2022 年 7 月時点）。ゆるやかに年々増加しているところです。また、百貨店等の売店につきましてはほとんどの店舗で女性が店長を務めており、リーダーとしての役割を果たしております。また、商品企画やマーケティング関連部門、工場管理系部門においても女性スタッフの人数が増えています。今後はますます女性社員の活躍が増えると期待できます。そのために必要な制度（「育児休業」、「産後パ育休」など）も着々と整えられています。

## ■ 健康的、かつ時代に合わせた働き方



2022 年



社員が心身ともに健康的に仕事に従事できるよう業務に当たる日数、時間についても数値目標を挙げて関与していきます。「ノー残業デーの実施」、「有給休暇の取得」、「育休取得」、「テレワーク推進」。2019 年末に始まった COVID-19 のパンデミックにより日本でも人々の働き方に大きな影響と変化がありました。今後いつかコロナ禍が終わりを告げたとしても、やはりそのときどきの状況、社会情勢に応じた働き方に変えるべく働き方のルールについても変更が加えられ続けるのは言うまでもありません。

以上

… SDGs への取組み

2024.01.31